

盛岡市教育振興基本計画（案）に係るパブリックコメント実施結果

- 1 募集期間 令和7年2月19日（水曜日）から令和7年3月10日（月曜日）まで
- 2 応募方法 市公式ホームページ応募フォーム、郵送、ファクス、持参
- 3 受付意見数 14件（3人）
- 4 反映区分 A：計画等に盛り込むもの 0件
 B：計画等に盛り込み済みもの 2件
 C：計画等に盛り込まないもの 0件
 D：その他、要望・意見・感想等 12件
- 5 意見の趣旨と市の考え方

No.	意見の趣旨	市の考え方	反映区分
1	<p>【施策1 子どもの教育の充実】</p> <p>①小中学校教育の充実</p> <p>◆ICT支援員の配置について（教育DXの基盤整備と教員の指導力向上）</p> <p>教育DXの推進、ICT環境の整備・活用は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等を図る上で必要不可欠な学習基盤と位置づけられています。この学習基盤を現場で直接的に支援するICT支援員の配置に関する具体的な記述がない点においては、今後の実効性が懸念されます。国が示す「令和7年度以降の学校におけるICT環境の整備方針（学校のICT環境整備3か年計画（2025～27年度）」の指標（4校に1人）をもとに、盛岡市における具体的なICT支援員の配置方針について明確にし、教員の業務負担軽減ならびにICT活用能力の向上、教育格差の是正に向けて具体的に推進してほしいです。また、県が掲げる「各市町村のICT支援員相互の連携の促進やネットワークの拡大」に積極的に後押しできるよう中心的・模範的存在として取り組んでいただきたいです。</p>	<p>学校における、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る上で、教員が、整備されたICT環境を最大限に活用することが求められており、本市においてもICTを効果的に活用した授業実践に向けたICT支援員配置の有効性を認識しておりますが、人材及び予算の確保が課題となっております。</p> <p>このような中、市教育委員会では、学校教育課において、ICT機器の活用を支援するとともに、指導主事による教員の指導力向上に当たるなど、各校を支援しております。</p> <p>今後も、ICT活用能力の向上に資する研修会等の開催や、ICT活用に係る校内体制への指導助言など、各学校を支援するしくみの充実に向けて取り組んでまいります。</p>	D
2	<p>【施策1 子どもの教育の充実】</p> <p>③学校施設の整備・充実</p> <p>◆校庭遊具の安全対策について（校舎等の整備）</p> <p>子どもたちの遊び場が限られている昨今、学校の校庭・遊具は大切な存在です。しかし、市内の一部の小学校において老朽化等により長期にわたり使用禁止されている遊具・区画があるようです。テープなどで注意喚起・使用禁止となっている遊具は、景観を損ねるばかりか、子どもたちにとっても地域から見ても気持ちの良いものではありません。子どもたちの安全のためにも早期の撤去、ならびに修繕等の対策を求めます。関連の「盛岡市立小中学校校舎安全対策改修計画」では校庭・遊具についての明確な計画はなく、遊具の安全性の確保や、定期的な点検・修繕、老朽化した遊具の処置等の計画方針について示していただきたいです。</p>	<p>小学校の遊具については、学校が日常的に行う点検の他、業務委託により、5か年で一巡する計画にて、専門業者による点検を実施しており、その結果に基づき、使用不可の判定となった遊具について使用禁止としたうえで、学校との相談により修繕や撤去等の対応を実施しております。</p> <p>また、「盛岡市立小中学校安全対策改修計画」につきましては、「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」における校舎等の大規模改修の遅れが顕著なことから、令和4年度より校舎大規模改修の一部を先行する形で、取り組んでいるところであります。</p> <p>市教育委員会においても重要な検討課題の一つとして認識しておりますことから、学校や地域の方々の御意見を踏まえ、検討を進めると共に、今後も引き続き点検や修繕等の対応をして参りたいと存じますので、御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。</p>	D
3	<p>【施策2 生涯学習の推進】</p> <p>② 社会教育施設の整備・充実</p> <p>◆情報発信について（社会教育施設の充実）</p> <p>施設利用促進のため、広報誌だけでなく市のホームページやSNS等を活用した情報発信に力をいれていただきたいです。施設に関する詳細な情報だけでなく、事業や地域活動等、できるだけ多くの世代に届けるよう情報発信、またはその仕組みの構築をお願いしたいです。</p>	<p>情報発信については、社会教育施設では、広報もりおかのほかに、市のホームページやSNSを活用して、施設の利用案内やイベント情報等を既に発信しているところです。御意見を踏まえ、できるだけ多くの世代に届けられるよう、より一層の充実に向けてまいります。</p>	D

No.	意見の趣旨	市の考え方	反映区分
4	<p>【施策2 生涯学習の推進】</p> <p>② 社会教育施設の整備・充実</p> <p>◆利用申請について（社会教育施設の充実）</p> <p>施設の利用申請手続きは紙媒体となっており、申請者の負担となっているだけでなく、市の職員にとっても受付や空き状況の管理に人的リソースを割かざるを得ない状況と推察します。また、利用者はリアルタイムでの空き状況を容易に把握することが難しく、利用機会の損失にも繋がります。リアルタイムに空き状況確認できるオンライン申請システムを充実させ利便性の向上と業務改善に寄与し、利用促進するよう改善をお願いしたいです。</p>	<p>施設の利用申請については、施設利用者の利便性を高めるため、御意見を踏まえ、引き続き検討してまいります。</p>	D
5	<p>●施策1 子どもの教育の充実</p> <p>○小施策1：小中学校教育の充実（2）豊かな心の育成</p> <p>イ いじめ問題、不登校への対応</p> <p>全員が同じ内容を同じやり方で同じペースで学習を進めていく授業形式は、現在の大きな社会の変化の中で生きていく子どもたちに合ったやり方なのか疑問を抱くことも多い。フリースクールなど地域の学校以外の学びの場を選択する子どもたちもおり、そういった学びの場への公的補助や利用家庭への補助などを行うことを取り組み方針に入れてほしい。</p>	<p>フリースクール等への補助については、フリースクールとの情報交換や他自治体への照会等の調査を行い、実施の可能性も含めて検討してまいりました。引き続き、調査結果を基にしなが、本市における補助の在り方について検討してまいります。</p>	D
6	<p>●施策1 子どもの教育の充実</p> <p>○小施策1：小中学校教育の充実（2）豊かな心の育成</p> <p>イ いじめ問題、不登校への対応</p> <p>担任として受け持つクラスの児童が不登校の状態になってしまった場合、さまざまな報告等の書類作成が必要となり、肝心の不登校児童への支援や、他の児童と向き合う時間が削られてしまうといったことが起きているのではないかと。状況の把握は必要であると思うが、担任の負担軽減のためにも、そういった報告業務は必要最低限にさせていただきたい。</p>	<p>教員が児童生徒一人ひとりに向き合う時間の確保は重要であると認識しております。</p> <p>市教育委員会では、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の一つとして、当該児童生徒の状況や学校内における支援体制、関係機関等との連携等、必要最低限の報告を学校にお願いし、それを踏まえたサポートをしてきたところです。</p> <p>今後も、教員が子どもたちに向き合う時間を確保できるよう支援してまいります。</p>	D
7	<p>●施策1 子どもの教育の充実</p> <p>○小施策1：小中学校教育の充実（2）豊かな心の育成</p> <p>イ いじめ問題、不登校への対応</p> <p>学校に通うことが楽しいと感じている子、学校という場に苦しさを感じている子など、さまざまな立場の子どもの声を聴き、子どもの権利が大切にされた教育の実践を希望する。そのためには、厳しい状況の中でがんばってくださっている先生方の心や体、権利がしっかりと守られ、子どもたちの一番近くにいる大人である先生方が余裕を持って笑顔で働くことができる環境であることがとても大切であり、子どもたちへのより良い教育に直結していると思う。ぜひ、先生方が働きやすい環境の整備をお願いしたい。</p>	<p>子どもたちが安心して学べる学校づくりを進めるため、学校風土の「見える化」や「盛岡市いじめ防止等のための基本的な方針」及び「盛岡市不登校児童生徒支援プラン」に基づき、子どもの権利が大切にされた教育実践に取り組んでまいります。</p> <p>教職員が子どもと向き合う時間の確保に向けた市独自の支援体制づくりとして、スクールアシスタント、不登校対策相談員、学校司書、少人数指導非常勤講師などを配置するスクールサポート事業を推進しております。また、夏季休業期間中における一定期間の学校閉庁期間を設けるなど、教職員の心身のリフレッシュを図ってまいります。</p>	B
8	<p>●施策1 子どもの教育の充実</p> <p>○小施策1：小中学校教育の充実（5）共に学び、共に育つ特別支援教育の充実</p> <p>障害の有無等に関係なく、多様な子どもたちが地域の学校に通うことで、地域の中にさまざまな子どもたちがいることを知り、多様な人と共に生きていく素地ができるのではないかと。医療的ケア児の対応ができる看護師の確保はぜひ進めさせていただきたいし、学校の規模や人数に応じたスクールアシスタントの十分な配置を希望する。教職員だけでなく、地域の大人が学校の中に入ることでサポートできることもあると考えているので、一人の地域の大人として引き続き自分にできることを考えていきたい。</p>	<p>地域の様々な方々と協働しながら、多様な意見を認め合うことの良さを感じられる活動はとても大切なことと考えております。</p> <p>医療的ケア児に係る看護師の確保やスクールアシスタントについては、十分な配置に努めるとともに、地域の方々の力を借りながら学校づくりを進めてまいります。</p>	D
9	<p>●施策2 生涯学習の推進</p> <p>○小施策1：地域における学びの充実（2）学校・家庭・地域の連携</p> <p>市民の学校教育への要求がエスカレートし、学校をサービス提供機関のように勘違いしている市民も少なくないように感じ、学校教育だけで担うものが大きくなり過ぎているように感じる。学校、家庭、地域みんなで子どもたちを育てるという意識を改めて持ちながら、連携を深めていけたらと思う。地域の中に出て、地域の方々と繋がりを持ちながら学ぶ社会的な要素が、もっと学校教育の中にあってもいいのではないかと。幼い頃から「自分と社会は繋がっている」「自分がアクションを起こせば社会は変えられる」と実感できるような学びの機会が増えていくといいな、と感じている。</p>	<p>本市ではこれまで、地域ぐるみの取組として教育振興運動に取り組んでまいりました。今後においても、子ども、家庭、地域社会、学校及び行政の五者の連携を深め、地域文化の継承と発展を目指し、更なる教育振興運動の充実を図ってまいります。</p> <p>また、子ども会リーダー研修会や中学生リーダー研修会の充実を図り、各地域で実施する子ども会活動や中学生社会参加活動に取り組んでまいります。</p>	B

No.	意見の趣旨	市の考え方	反映区分
10	<p>●その他、感じていること 学校現場に新たな取り組みが取り入れられる際に、それまで行われていた業務や取り組みの削減が行われておらず、新たな業務が増える一方なのではないかという懸念があります。現場で教員が背負わなければならないことがどんどん増え、余裕も余白も無くなっている状況を子どもたちは敏感に感じ取っていると思います。厳しい状況の中、がんばってくださっている先生方や教育行政の皆さまを、地域の一員として応援できることはないかと模索しております。私たちも、盛岡市民として、子どもたちの明るい未来に向けて何ができるか、考え続け、行動し続けていきたいと思っております。 子どもたちの幸せ、そして子どもたちの側にいる先生方の幸せのため、一緒に考える仲間として、引き続きどうぞよろしくお願いたします。</p>	<p>教員の業務の効率化と業務の質の向上を目的として、本市では、令和6年10月から統合型校務支援システムを導入しております。また、保護者へのアンケート調査等、クラウドサービスの活用も業務の負担軽減につながることから、今後も、統合型校務支援システムやクラウドサービスの積極的な活用について支援してまいります。 市教育委員会では、それぞれの学校の実情を踏まえ「学校・教師が担う業務に関する3分類」を徹底する取組を進めており、教員の負担軽減を図るため、地域ボランティアの活用や学校運営協議会を通じた家庭や地域との連携の強化などの取組を推進してまいります。</p>	D
11	<p>子どもの学ぶ権利を保障し、学校外の学びの場を支えるために 盛岡市が策定を進めている「盛岡市教育振興計画（案）」には、フリースクールとの連携を強化していく方針が出されていますが、現在の計画では、学校に通えない子どもや学校外で学ぶ子どもたちへの具体的な支援策が不足しています。 不登校の子どもや家庭が直面する課題を踏まえ、計画の充実を求めます。</p> <p>フリースクールの利用を求める声に応えつつ、経済的に利用をあきらめたり、運営上の制限から料金を改訂し値上げしなければならない状況にあるなど、必要とする子ども達に届く支援を続けていくためにも、フリースクールと利用家庭への経済的な補助金の創設は必要不可欠だと考えます。</p> <p>NPO法人多様な学びプロジェクトが実施した「不登校のこどもの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ調査」（2023年版、2024年版）では、不登校になった子どもたちが安心して学びを継続できる環境が不足している実態が明らかになっています。 また、文部科学省の調査（2024年版）によると、不登校の子どもに対する支援が「学校復帰」に偏っているという指摘もあります。しかし、実際には子どもたちの状況は多様であり、学校以外の学びの選択肢を充実させることが、不登校の子どもたちの学習機会の確保につながると考えます。</p>	<p>市教育委員会としましては、子どもたちの多様な学びの場を保障していくことは肝要であると捉えておりますので、貴重な御意見として承ります。</p>	D
12	<p>2. 学校と子どもの認識のずれと支援の方向性 不登校の要因に関して、学校側の認識と子ども・家庭側の認識には大きなずれがあります。 文部科学省の調査（2024年版）では、学校側は「無気力」「生活リズムの乱れ」を主な要因と捉えています。 しかし、NPO法人多様な学びプロジェクトの調査（2024年版）によると、不登校の子どもたちは「学校の環境が合わない」「人間関係に悩みがある」「授業が苦痛」といった理由を挙げる割合が圧倒的に多い。</p> <p>日本経済新聞の報道（記事）でも、学校と家庭で不登校の要因に関する認識のギャップが指摘されています。 この認識のずれを前提に、公教育は「すべての子どもが学べる場」を提供することを使命とすべきです。学校風土を子どもの権利に寄り添ったものへと変えていくためにも、学校外の学びの場を充実させることが必要です。</p>	<p>市教育委員会としましては、子どもたちの多様な学びの場を保障していくことは肝要であると捉えておりますので、貴重な御意見として承ります。</p>	D

No.	意見の趣旨	市の考え方	反映区分
13	<p>3. 経済的負担と支援の不足</p> <p>盛岡ユースセンターにおいても、多くの子ども達に喜ばれながらも、人件費や物価の上昇、利用者が増えたことによる消費税の支払い義務など、公費で賄われる学校運営と違い、補助金のないフリースクールの運営は、非常に難しいものがあります。</p> <p>2025年度からやむなく料金改定をすることになりましたが、経済的に難しいため、利用を諦めるという話も出てきています。さらに、心理的・福祉的サポートを必要とする子どもの割合も多く、そうしたサポート体制の充実も求められています。</p> <p>不登校の影響は心理的負担だけでなく、経済的負担にも及びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・99.5%の不登校家庭が支出の増加を感じており、特に**食費（81.2%）、水道・光熱費（57.8%）、学習費（51.2%）**が増えている（まなびリンク調査）。 ・36.9%の家庭で世帯年収が減少し、7割以上の保護者が仕事の遅刻・早退、休職、転職、退職を余儀なくされている。 ・NPO法人多様な学びプロジェクトの2023年度調査によると、保護者が行政に望む支援の上位2位は「フリースクールなど学校以外の場が無料または利用料減免（72.8%）」と「フリースクールなど学校以外の場に通った場合の家庭への金銭的支援（72.7%）」であり、経済的支援を求める声が非常に大きいことが分かっています。 <p>一方で、岩手県では義務教育段階の子ども1人あたり年間約112万円の教育予算が投じられています（岩手県HP）。しかし、不登校になるとこの予算は子どもの学びに届きにくい実態があると考えます。これは大きな制度のギャップであり、改善が求められます。</p>	<p>市教育委員会としましては、子どもたちの多様な学びの場を保障していくことは肝要であると捉えておりますので、貴重な御意見として承ります。</p>	D
14	<p>4. 盛岡市教育振興計画に求める施策</p> <p>学校外の学びの場を充実させることは、不登校の子どもを支援するだけでなく、学校風土の変革にもつながります。学校外で学ぶ選択肢が公的に認められ、支援が充実すれば、学校側も多様な学びを尊重する風土へと変化し、結果として学校に通う子どもたちにとっても柔軟で安心できる環境が生まれます。</p> <p>盛岡市教育委員会としても、学校外での学びの場を保障する施策を強化することを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールへの運営補助金の導入 ・不登校の子を持つ家庭が利用できるフリースクール等利用料補助制度の導入 ・居場所や相談機関のマップ化と、学校外の学びに関する情報提供の強化 ・学校とのやり取りにつかえるフォーマットの普及 <p>すべての子どもが自分に合った学びの場で安心して成長できる社会を実現するために、学校以外ですでに生まれている子ども達の学びの環境に対する支援の強化を進めていただくよう、強く要望します。</p>	<p>フリースクール等への補助については、フリースクールとの情報交換や他自治体への照会等の調査を行い、実施の可能性も含めて検討してきました。引き続き、調査結果を基にしながら、本市における補助の在り方について検討してまいります。</p> <p>また、学校外の学びに関する情報提供の強化など、御意見を踏まえながら、今後も子どもたちの学びの場の保障に向けた取組を進めてまいります。</p>	D